

発達性ディスレクシアについて



「ディスレクシア」とは、知的に問題はないものの読み書きの能力に著しい困難をもつ症状をいいます。全く読めないのではなく、スピード、正確さと流暢さに問題があります。

「発達性ディスレクシア」とは、おもに就学期前後に明らかになる発達障害の一種です。知能や聴いて理解する力、発話で相手に自分の考えを伝えることには問題がないとしても、読み書きの能力だけに困難を示す障害のことをいいます。発達性ディスレクシアの子どもたちは、見た目やチェックリストといったものでは、見つけ出すことは難しいです。発達性（生まれつき）なので、本人さえ、困難さや違和感に気付くことが難しいです。

犬山市の取組

発達性ディスレクシアの診断は、個別に専門機関で行うため集団で行うテストなどで把握することはできません。

犬山市では、読み書きに困難を抱える児童生徒の把握に努め、支援方法を考え、実践していきます。一人一人本来もっている良さを発揮できるよう、相談やアセスメントの機会を設けたり、ラーニングスタイルの工夫や合理的な配慮をしたりするよう努めています。

